

シラバス

教 科	科 目	単 位 数	学 年	コ ー ス	組
国 語	現 代 文 探 究	3	2	理系NP	10・11組

教科書	『精選 文学国語』（三省堂）	副教材	『新訂総合国語便覧』（第一学習社）
			『上級入試漢字』（桐原書店）ほか

科目の目標	<p>(1) 社会生活に必要な国語の知識・技能を修得し，言語文化に対する理解を深める。</p> <p>(2) 共感力・想像力・創造的思考力を伸ばし，対話力を上げたり，言葉による自己省察力を深めたりする。</p> <p>(3) 言語文化の担い手としての自覚を深め，言葉を通して他者や社会と関わろうとする意識を高める。</p>
-------	---

科目の概要	<p>「現代の国語」「言語文化」により育成された資質・能力を基盤として，人の心の機微にふれ，日常の生活を見つめなおす契機として重要な役割をはたす文学的文章の学習を通じて，特に感性や情緒，共感力、表現力の育成に努めつつ，今後の文化の継承と創造に欠くことのできない資質・能力を獲得するための科目である。</p>
-------	---

観点別評価			
3 観 点	○「知識・技能」	○「思考力・判断力・表現力」	○「主体的に学びに向かう態度」
10 の 力	①「知力・学力」 ⑥「受信・発信力」 ⑨「自己管理能力」	②「課題対応力」 ③「論理的思考力」 ④「原因分析力」 ⑤「傾聴力」 ⑥「受信・発信力」	②「課題対応力」 ⑦「協働力」 ⑧「行動力」 ⑨「自己管理能力」 ⑩「自己実現力」
観 点 の 評 価	○言葉には，想像や心情を豊かにする働きがあることを理解したか。 ○表現を通じて，語感を磨き，語彙を豊かにできたか。 ○文学的文章の種類・特徴や表現技法について，体系的に理解しているか。 ○読書の効用と意義について，理解を深められたか。	○読み手の関心を引き出すような文章表現、文体、修辞の工夫ができていないか。 ○自身の伝えたいこと，感じさせたいことが伝わる表現ができていないか。 ○作品の語りや構成等に注意して，内容の解釈ができていないか。 ○作品の解釈を通じて，人間、社会、自然などへの洞察を深められたか。	○作品の内容や形式について，評価し，他者の考えを参考にしながら，論述したり討論することができたか。 ○先行する論評や作品を参考に，創作したり，批評しあったりできたか。 ○作品に関連する事柄について調べるなどして，成果を発表したり，まとめたりすることができたか。
評 価 の 方 法	○定期試験 ○授業内活動 ○課題への取り組み・提出状況 以上をふまえて、学期末・学年末の総合成績をもって評価する。	○定期試験 ○授業内活動 ○課題への取り組み・提出状況 以上をふまえて、学期末・学年末の総合成績をもって評価する。	○授業内・外での学習活動等 ○課題への取り組み・提出状況 以上をもとに、学期末・学年末の平常点で評価する。

学 習 計 画		
学期	学 習 内 容 (単 元)	単 元 別 学 習 目 標
1 学 期	◇詩歌 宮沢賢治「永訣の朝」 ◇小説の言葉・詩の言葉 ——文学国語のいざない 蜂飼 耳「詩はいつでも近いところにある」 ◇文学史・演習・小テスト・授業内課題等 【1学期 中間試験】 5月19日～22日	○詩の言葉の特徴を理解する。 ○表現形式や修辞の効果に着目し、それぞれの詩の理解を深める。 ○近代から現代にかけての詩の展開について学習し、文学的・文化的意義を理解する。
	◇小説 中島 敦『山月記』 ◇文学史・演習・小テスト・授業内課題等 【1学期 期末試験】 7月1日～7日	○会話と地の文の関係に着目して、人物像を把握する。 ○語りや文体が小説の内容や解釈に与える影響を理解し、自らの表現に役立てる。 ○昭和期（戦前・戦中・戦後）の文学史について学習し、その文学的・文化的意義を理解する。
2 学 期	◇評論 北村紗衣「お砂糖とスパイスと爆発的な何か」 ◇演習・小テスト・授業内課題等 【2学期 中間試験】 10月14日～17日	○批評について理解を深めるとともに、文学の役割や意義について考える。
	◇詩歌 短歌十五首「木に花咲き」 ◇評論 穂村弘「麦わら帽子のへこみ」 【2学期 期末試験】 12月1日～5日	○短歌に詠まれた情景や心情を理解する。 ○近代から現代に至る短歌史について学習し、その文学的・文化的意義を理解する。
3 学 期	◇小説 夏目漱石『こころ』 ◇文学史・演習・小テスト・授業内課題等 【3学期 学年末試験】 3月4日～9日	○小説の形式や表現の特色に留意して、登場人物の言動や心情を理解する。 ○語りや文体が小説の内容や解釈に与える影響を理解し、自らの表現に役立てる。 ○明治期から大正期の文学史について学習し、その文学的・文化的意義を理解する。